

開発環境のつくり方

株式会社オープンストリーム

目次

Windows の設定(拡張子の表示、隠しファイルの表示)	2
Eclipse のインストール	5
Eclipse の起動.....	11
最後に.....	15

Windows の設定(拡張子の表示、隠しファイルの表示)

本研修では、Java プログラミングを行ったり、開発ツールを使用するために、Windows の設定を以下の様に変更いたします。

- 拡張子の表示
- 隠しファイル隠しフォルダの表示

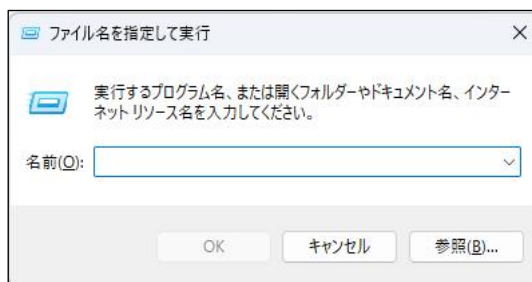
※上記設定をされている方は、本章の手順は必要ございません。

次章「Eclipse のインストール」へ、手順を進めてください。

手順 1.「ファイル名を指定して実行」ウインドウを開きます

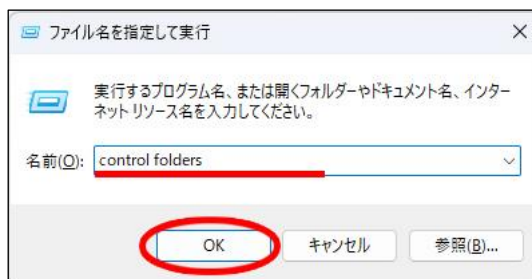
「windows」キー(キーボードの左下にあるウインドウズマークのキー) + 「R」キーを同時に押します。(「windows」キーを押しながら「R」キーを押すのが、押しやすいです)

「ファイル名を指定して実行」というウインドウが開きます。



「control folders」と入力して「OK」ボタンを押下します。

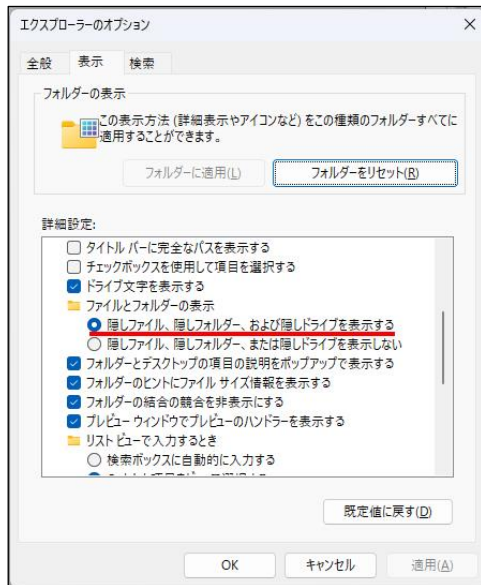
(「エクスプローラのオプション」というウインドウが開きます)



手順 4. 「ファイルとフォルダーの表示」の選択を変更します

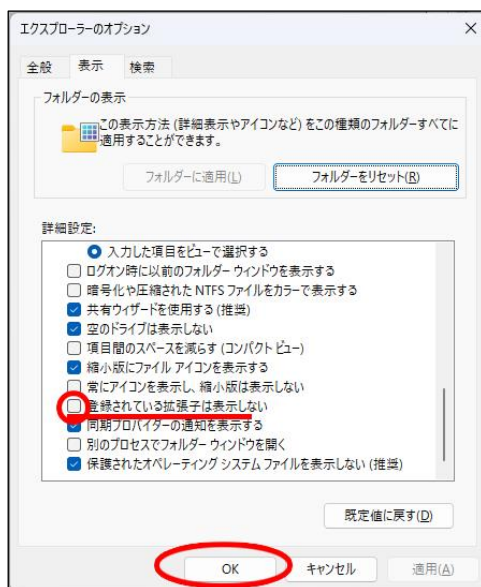
「ファイルとフォルダーの表示」の「隠しファイル、隠しフォルダ、および隠しドライブを表示する」を選択します。

下段にある次の項目「登録されている拡張子は表示しない」までスクロールします。

**手順 5. 「登録されている拡張子は表示しない」のチェックを外します**

「登録されている拡張子は表示しない」がチェックされているので、チェックを外します。

最後に「OK」ボタンを押下して「エクスプローラーのオプション」ウインドウを閉じます。

**手順 6. 以上で設定終了です**

Eclipse のインストール

本研修では、Java プログラミングに Eclipse という IDE(統合開発環境)を使用します。
Eclipse には、日本語化プラグイン(機能拡張)や、Java 開発用プラグインを適用してある Pleiades というパッケージがあります。

まずは、この Eclipse の Pleiades パッケージをダウンロードしてインストールします。

手順 1. Pleiades 日本語化サイトにアクセスします

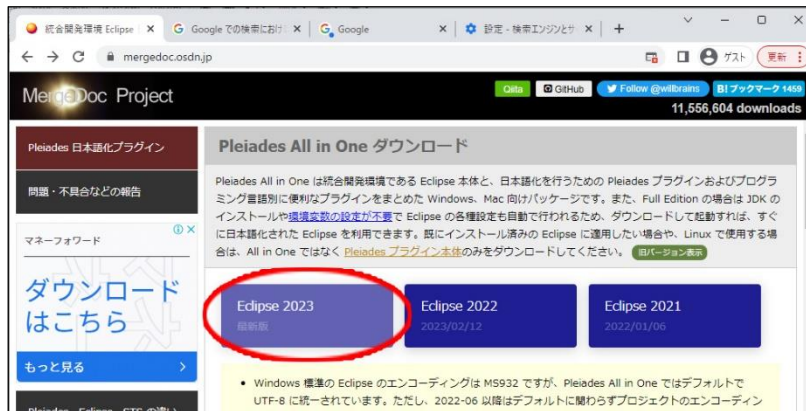
<https://mergedoc.osdn.jp/>

にアクセスします。



手順 2. 最新版の eclipse を選択します

最新版（図の場合は「Eclipse 2023」）を選択します。



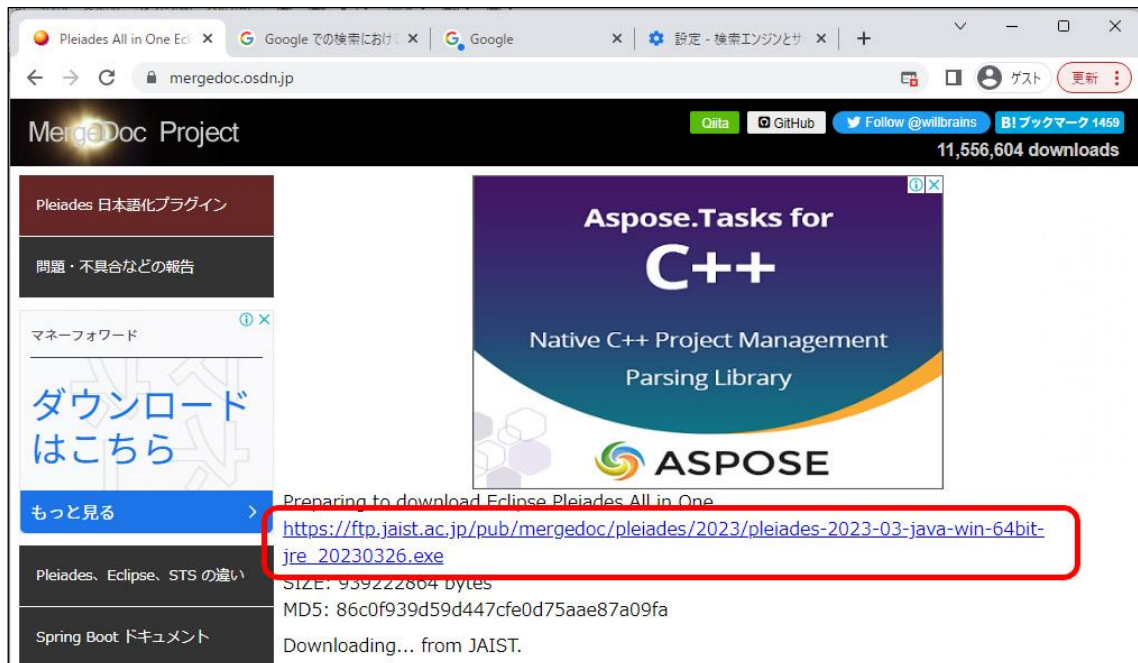
手順 3. Windows（もしくは MacOS）の「Java」「Full Edition」を選択します。

Windows 版（もしくは MacOS 版）の「Java」「Full Edition」を選択します。



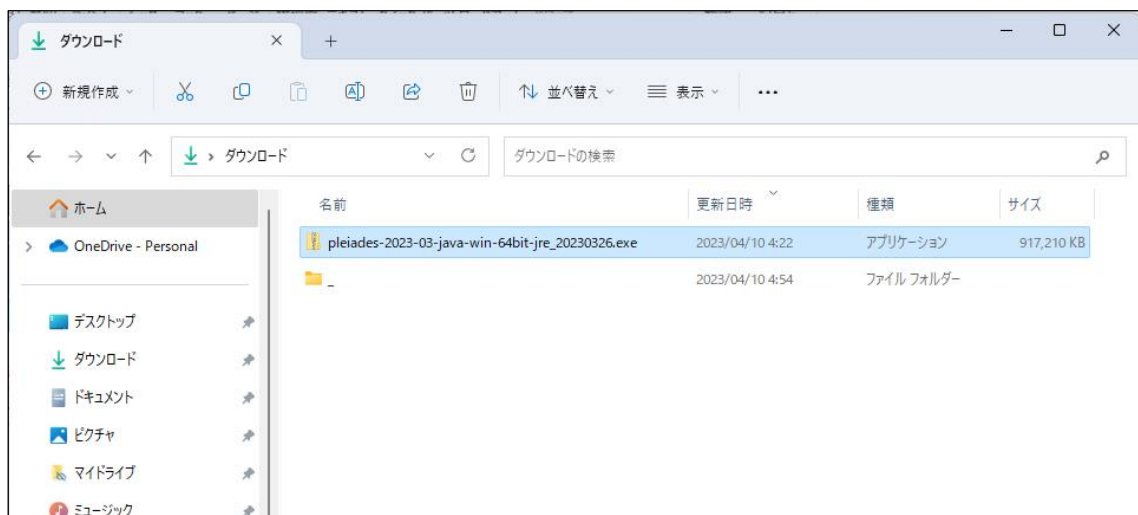
手順 4. ダウンロードを押下します

「Preparing to download Eclipse Pleiades All in One」の下、ダウンロードリンクを押下して、exe ファイル(自己解凍ファイル)をダウンロードします。

**手順 5. ダウンロードしたファイルを解凍実行します**

ダウンロードした exe ファイルは、自己解凍書庫ファイルです。

(pleiades-2023-XX-java-win-64bit-jre_2023XXXX.exe ……XX は最新版の日付)
ダブルクリックして解凍ソフトを起動してください。



手順 6. ファイルの解凍先を指定して解凍します

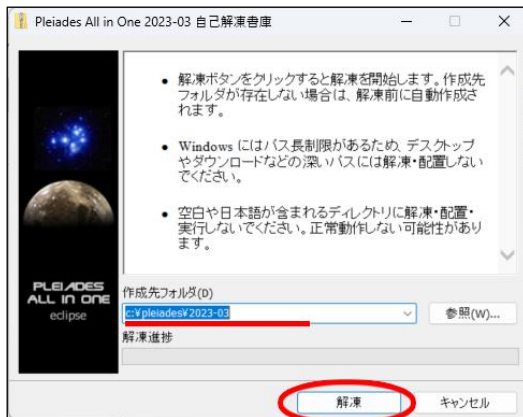
解凍ソフトが起動したら、ファイル(Eclipse)の解凍場所を指定します。

任意の場所でも良いですが、Eclipse を使用した経験が無い場合はデフォルト

(C:¥pleiades¥2023-XX … XX は最新版の日付)

にして下さい。

「解凍」ボタンを押下します。



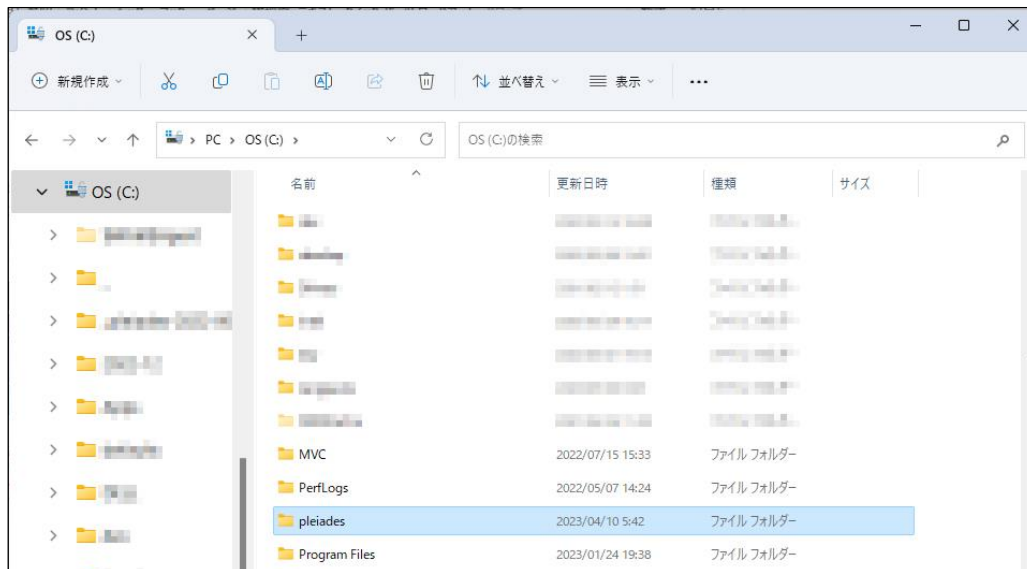
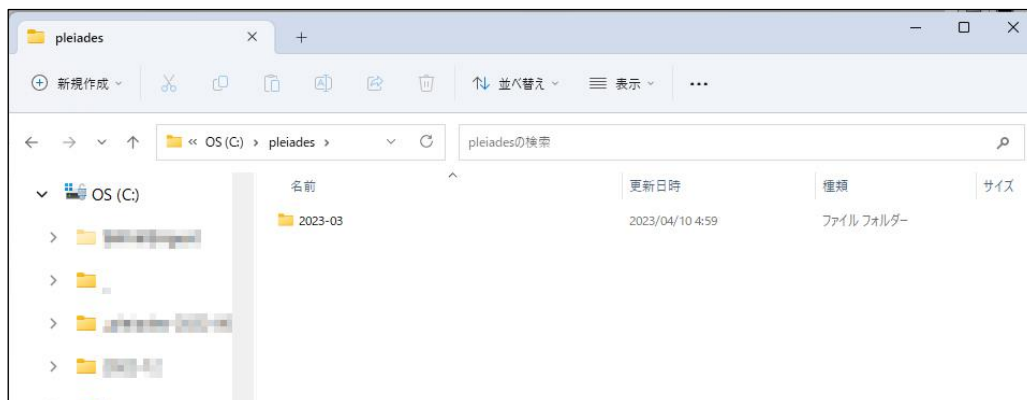
解凍が行われます。

(環境によって異なりますが、数分～数十分かかります)



手順 7. 解凍先のフォルダを開きます

デフォルトの場合は解凍先のフォルダは以下になります。

Cドライブ直下の pleiades フォルダ内**2023-XX フォルダ (XX は最新版の日付)**

手順 8. 解凍先のフォルダが Pleiades(Eclipse)のインストールフォルダになります

解凍先のフォルダ

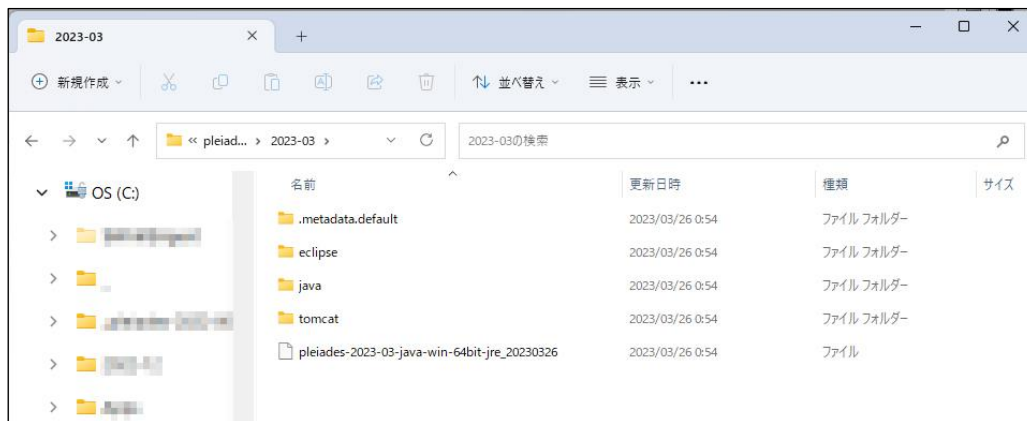
C:¥pleiades¥2023-XX (XX は最新版の日付)

が、Eclipse(Pleiades)のインストールフォルダになります。

フォルダの中に

- eclipse
- Java
- tomcat

というフォルダが展開されていれば問題ありません。



Eclipse の起動

Eclipse を起動してみましょう。

手順 1. Eclipse (Pleiades) のインストールフォルダを簡単に解説します

Eclipse (Pleiades) のインストールフォルダ直下には、以下のフォルダが生成されています。

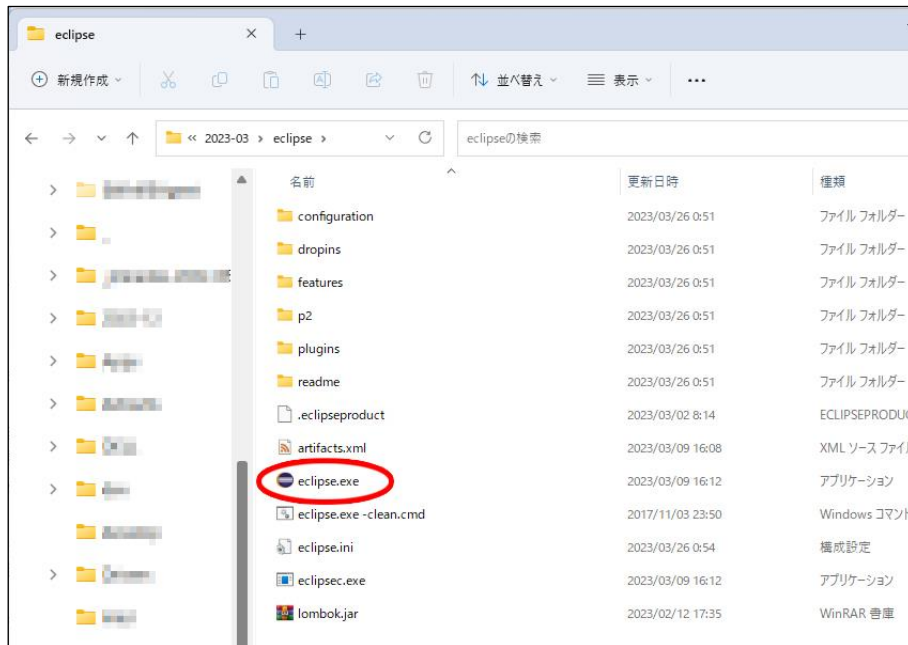
- .metadata.default
Eclipse の設定の元本(コピー元)です。
この設定フォルダは workspace(作業領域)が作成されるごとにコピーされます。
- eclipse
Eclipse 本体が格納されているフォルダです。
Eclipse を起動する時は、eclipse フォルダ内の eclipse.exe をダブルクリックします。
- java
Java プログラミングに必要な、JDK（講義内で詳しく解説します）が格納されているフォルダです。
フォルダ内の「8」「11」「17」という数字のフォルダは、Java バージョンを表します。
- tomcat
web アプリケーション開発に必要なアプリケーション(Servlet コンテナ)が格納されているフォルダです。
- workspace
Eclipse インストール直後はまだ生成されていません。
Eclipse を 1 度でも起動すると、自動で生成されます。
Java 開発を行うための作業用フォルダになります。

手順 2. Eclipse を起動します。

Eclipse (Pleiades) のインストールフォルダ内の「eclipse」フォルダを開きます。

「eclipse.exe」が Eclipse の実行ファイルになります。

「eclipse.exe」をダブルクリックして Eclipse を起動します。



Eclipse の起動ウィンドウが開きます。

(初回起動時は 2～3 分ほどかかる事もあります)



手順 3. Eclipse の workspace フォルダの場所を指定します

Eclipse 起動ウィンドウが開くと、workspace フォルダの場所を指定する

「ワークスペースとしてのディレクトリー選択」ウィンドウが開きます。

場所は任意で良いですが、Eclipse を使用した経験が無い場合はデフォルト

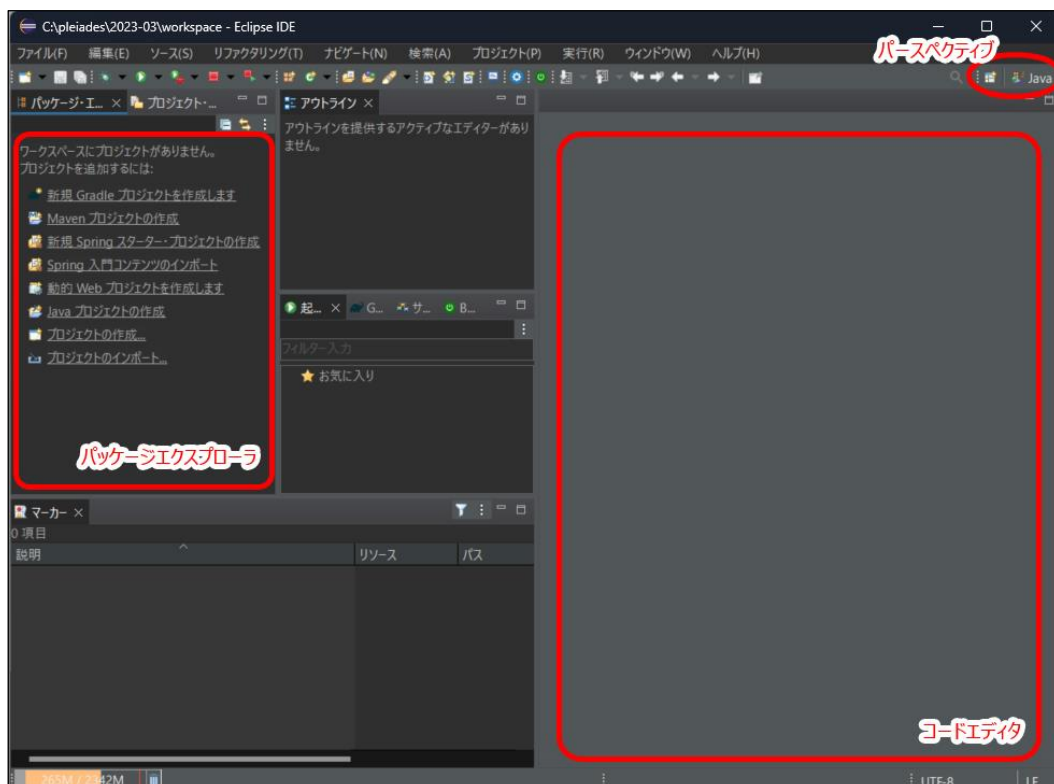
../workspace

を指定してください。

**手順 4. Eclipse (Pleiades) の起動後の画面**

Workspace の場所を指定してしばらくすると、Eclipse の起動後の画面が表示されます。

詳しい使い方は、講義動画内で解説します。



手順 5. 以上で Eclipse（Pleiades）の起動方法は終了です。

ウインドウの閉じる（ウインドウ右上の「X」ボタン）などで、Eclipse を終了してください。

最後に

ご不明な点がございましたら、弊社研修窓口
dcollege_projava_info@opst.co.jp
まで、お問い合わせください。